

*この手紙は2005年1月14日、スパイラルホールで開催された記者発表の時読み上げられました。

本日、プレスカンファレンスにお集まりくださった皆様へ

こんにちは。

さとうりさです。

みなさんお元気でしょうか。

私は、作品について誰かに説明していると、言葉が溢れて頭の中が混乱し、突然、黙り込む癖があります。

なので今日はこうして手紙に書いてみました。

去年の5月に万博作品のコンペ参加を打診された際、展示作品のテーマが「幸せのかたち」と聞き、実はとても暗い気分になりました。このテーマになったのも、きっと様々な理由があるのだろうなあ。

そう分かっている、「ウェット」と思いました。私のなかで、世間で使われている「幸せ」とは「他者と比べる」ということとセットになっているように思えてならないからです。

何から何まで相対的に価値を付け、自分の「幸せ」を他人に定義されてしまう。こんな不幸な事が他にあるのか！（ビックリマーク）と。

今回の作品はそのへんから始まりました。

じゃあ、私にとって絶対的な「幸せ」とはなんだろう。予想はしていましたが、いくら考えても答えはできません。

どうやら、私は根っからのネガティブ思考の人間で、ポジティブな側面から物事を考えるのが苦手なようです。

わかった、それなら、自分にとって「不幸」ってなんだろう？

日々、恐れて、不安に思うことはなんだろう？

どんな夢を見たとき、「悪夢」と呼んでいるんだっけ？

即、答えができました。

「無くすこと」です。

何かを無くし、欠けてしまうとの悲劇を恐れています。

その悲劇のあとの自分の生き様に不安を抱えています。

そう考えると、こうしている今でも、、、呼吸が浅くなります。

この不安をぬぐうことができれば、どんなに幸せだろう！（ビックリマーク）ん？幸せ？

イマ、ワタシノ、「幸せ」、ワカッタ。

カタコトながら、そう思いました。

程度の差こそあれ、人はそれぞれ自分のどこかが欠けていると感じながら生きています。

精神的なもの、思想的なもの、身体的なもの、物質的なもの、環境的なもの、先天的に、後天的に、突発的に、継続的に、、、

そしてまた、こうしているあいだにも、無数の「打撃」が、誰かの何かを「奪取」し、「喪失」を生んでいます。

作品のタイトルになっている player alien とは、player piano（自動演奏ピアノ）をもじった造語です。

お互いがエイリアンであるということを忘れ、自分の理想とそぐわないことや理解できない事を自動的にエイリアンとして定義付けている。

作っては壊し、壊しては作り、パズルゲームをしているかのようです。

このタイトルはその様子を意味しています。いつか、私たちがこのゲームを止めることができたとき、

同時に「幸せのかたち」という言葉自体も世の中から消えるのではないかと。

ぼんやりとですが、とそう思います。

また、この作品のフォルムには、

「自分の何か欠けていても、この先何かを欠けてしまうとしても、また、欠いてしまった人を目の前にしても、

いつでも、動じずゆったりと立っていたい」

という願望が込められています。

結論を言えば、私には「幸せのかたち」はわかりませんでした。

だからせめて、私の考える「幸せ」に近づくためのキメポーズ。

それがこの作品です。

では、また。

何か打ち明けるとき、またお手紙を書きます。

2005.1.14

さとうりさ

alien: a. 外国の、調和しない、異質の
n. (在留)外国人、居留民、宇宙人、異星人
